

必ず議席奪還を・大平さん 決意を語る

ある会議での大平喜信・比例名簿掲載予定者の発言を紹介します。

前衆議院議員で比例中国ブロック候補の大平喜信です。



「中国地方のどんな小さな声も聞き逃さない」との決意で3年かかりましたが、先月で中国地方全107自治体のすべてに足を運び、多くの首長さんたちに出会ってきました。(写真左・島根県吉賀町で)

人口1400人の岡山県最東端の村、西粟倉村の村長は「地球の持続化のためにこの村で何ができるか、何をすべきかを考えてきた」と述べ、山を守り生かす「100年の森構想」にとりくんでいます。「日本の国土の7割をしめる森林のための予算が国家予算全体の

1%もない。1ケタ足りない」と語気を強めておられました。

島根県の最西端、吉賀町は町営の小水力発電所の活用で毎年6000万円の利益をあげ、それを財源に子育て支援策の「3つのゼロ」(①子ども医療費18歳まで②保育料③給食費)を実現させました。さらに町長は「町の職員はこれからの時代、増やさねばならないと考えている」とも。その発想と決断にたいへん感動しました。

農林漁業や福祉に力を入れ、内需、地産地消に徹底してこだわる姿勢。これらの伺った自治体に共通する努力は、この間の自民党の安倍・菅政権が切り捨ててきたことばかりです。そしてこれらは私たち日本共産党の当時は「7つの提案」、今回報告で強調された「新しい日本をつくる5つの提案」そのものであり、いわゆる保守の首長さんたちともたいへん響きあい、熱い期待の声がどこでも寄せられました。中国地方こそ日本共産党の躍進を痛切に求めていることを確信しています。

特に農業の課題が多く寄せられましたから、先月末には中国五県の国政候補・地方議員とともに中四国農政局へ要請にいきました。全自治体訪問と省庁交渉の全体のとりくみをまとめてカラーの冊子を作成し、各地の首長さんにお送りする準備をしています。さらにつながりを強めていきたいと思えます。

各地をまわっていて何よりうれしかったのは、どこでも党員がおり支部があって日本共産党の旗を立てて不屈にがんばっていることです。島根県吉賀町にいったとき、街頭宣伝を予定していた場所に行くと党六日市支部の2人の女性が何分も前から待ってくださっていました。岡山県の勝央町は長年に渡って党議員の空白自治体ですが、大平が来るからと平日の夜でしたが党員5人、党外2人の7人でつどいも開催してくれました。中国山地の奥深くの山村でも瀬戸内海や日本海に浮かぶ島々でも中国地方の隅々から比例票を積み上げていくために、党と後援会の皆さんと心ひとつに頑張りぬく決意です。

被爆75年の今年、核兵器禁止条約の発効が決まりました。この分野こそこれまで伺ったことのない、深い関わりをもってこれなかった方たちのところへ訪ねていこうとこの一年、懇談・交流を重ねてきました。原水禁系の被団協や被爆二・三世の会、韓国・朝鮮の被爆者団体、原爆小頭症患者と家族の会、被爆者相談員・ケースワーカーの団体など訪問をし、皆

さんのとりくみへの敬意と感謝、ともにがんばる決意を申し上げるとともに、あらためてそれぞれの被爆の実相と核兵器の非人道性、国政への要望・課題をお聞きしてきました。

一週間前、カトリック教会の広島司教区、白浜満司教と懇談をしました。核兵器禁止条約の発効を喜び合うとともに、私から昨年のローマ教皇の広島でのメッセージを掲載したしんぶん赤旗をお渡しし、今年一月の第28回党大会でも志位委員長がローマ教皇の発言を歓迎すると報告でもふれ、また全国の討論でも話題になったこと、そして綱領改定の内容を紹介しました。司教はたいへん感激と歓迎をされ、「おっしゃるとおり。今こそ小さな国々の声を聞くべきです。軍拡競争にける費用を環境問題や核兵器廃絶に使うべきだ」と述べられるなど、大変響き合う交流となりました。(司教に進められ、昨年11月広島を訪れたフランシスコ・ローマ教皇が座った椅子の横で記念写真)



3年前の核兵器禁止条約採択の国連会議に私も現職国会議員として参加をしました。その場で被爆者のサーロー節子さんとお会いしました。日本の国会から来ましたというと、彼女は「我々は日本政府に裏切られ、見捨てられた。あなたたちが政府を変えてください」との述べられました。被爆地ヒロシマ出身の候補者として、被爆地ヒロシマをかかえる中国ブロックの共産党として、被爆者と世界の国々の奮闘にこたえるために、なんとしても総選挙で勝ちぬきたいと思います。

街頭で党の風を吹かせる先頭に立つとともに、SNSの活用もこの間努力してきました。ツイッターの日々の更新を軸にしながら、公式ラインの開設、被爆75年の決意と生い立ち編という二本のプロモーションビデオの作成、岡山大学名誉教授の小松泰信さんとのZOOMによる時事対談のライブ配信を毎月行い、一年で10回を重ねました。

広島の民青の皆さんともZOOMによるオンラインつどいを春から毎月とりくみ、党綱領、学費、ジェンダー、自己責任などのテーマで7回おこなってきました。毎回新しい参加者が増え民青同盟員が増え、党建設・世代継承の力にもなっています。

あるマスコミの管理職まで勤めてこられた党員が先日、私のプロモーションビデオの生い立ち編を視聴して大変感激をされ、「ぜひ私に『大平喜信物語』という連載を書かせてほしい」と申し出てくださいました。「挿絵を描いてくれる人を探してくれないか」と言われましたので、少し疎遠になっていたある子育て真っ最中の30代の党員が思い浮かび、こちら「何か力になりたかった」とイラストを描いてくれることを即決してくれました。みんな、なんとしても選挙に勝ちたいと願っています。すべての党員に声をかけきり、つながり、もちろん後援会員の皆さんの力を借りながら、みんなの力でこの総選挙に勝ちぬくためにがんばります。

